

日本クリエイション賞

教育で世界を変える

学校法人インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢(ISAK) 代表理事 小林りん氏



小林りん氏と、世界29カ国から集まった生徒たち



国籍、出身家庭、宗教など多様なバックグラウンドの生徒たちが
共同生活を送っている



小林りん氏

2

014年8月、日本で初めての全寮制インターナショナルスクール「ISAK (International School of Asia, Karuizawa)」が開校した。授業はすべて英語で行われ、世界140カ国以上の国・地域で導入されている国際的な教育プログラム「国際バカロレア」の認定校であるとともに、日本の文部科学省から教育課程特例校指定を受け、卒業後は日本の高等学校の卒業資格も得られる。開校2年目を迎えた同校には世界29カ国から98人の生徒が集まっている。1年間の学費は寮費を含めて362.5万円と高額だが、返済不要の奨学金を受給している生徒が半数以上を占め、国内外のあらゆる社会的経済的バックグラウンドの高校生が入学している。国籍、出身家庭、宗教など多様な

人々との共同生活で、世界の様々な価値観に触れ、相互理解することで将来のチェンジャーが育っていく。

代表の小林りん氏は、外資系投資銀行などを経て国連児童基金(ユニセフ)フィリピン事務所でストリートチルドレンの非公式教育に携わった際、圧倒的な社会の格差を目の当たりにし、リーダーシップ教育の必要性を痛感した。2007年に発起人代表の谷家衛氏と出会い、共に学校を設立することを決意。リーマンショックによって資金調達が難航、学校用地の取得、国際バカロレアと日本の許認可の両立など制度の壁に苦労しながらも、サマースクールで実践を積み重ね、世界中から優秀な教師を集め、7年がかりで開校にこぎつけた。

ISAKのモットーは、“One Life. Realize Your Potential. Be a Catalyst for Positive Change. (一度しかない人生。自分の個性を生かして思い切り生き、自分の立つ場所から世界を変える。)”というもの。ISAKの教育プログラムには、スタンフォード大学でも採用されている「デザイン思考」が組み込まれている。誰かに与えられる課題ではなく解くべき問題を発見することから始め、皆でアイデアを出し合ってプロトタイプを作り、検証を重ねながら新しい価値を創造していくアプローチだ。

ISAKが日本の教育の在り方に一石を投げ、価値観を変えるとともに、ここで教育を受けた子どもたちが将来世界を変えるリーダーへと成長することを期待したい。